



# 弘前医療福祉大学紀要

*Journal of Hirosaki University  
of  
Health and Welfare*

第6巻 第1号  
2015年3月発行

弘前医療福祉大紀要  
J. Hirosaki Univ. Health Welf.

弘前医療福祉大学紀要編集委員会

〔 特 集 〕

これまでの公開講座紹介

# 巻 頭 言

弘前医療福祉大学

副学長 相 澤 保 正

地域社会において、大学に求められる役割が大きくなっているなかで、弘前医療福祉大学では、平成21年4月開学以来今日まで、大学が有する人的資源・知的資源を地域で有効に活用し、社会に貢献することを目的に公開講座を開催してきました。

公開講座には通底するテーマとして「健康で豊かな暮らしのために」を掲げ、このテーマに沿って本学の教員が、それぞれの研究領域を生かして、講座を担当してきました。

本学紀要の本号において、平成21年度講座のひとつである「生活の中での感染予防—インフルエンザからの防御—」などから始まり、平成26年度講座のひとつである「家庭でできる予防リハビリテーション—メタボとロコモを考えます—」などまで、各講座の概要をとりまとめ掲載したことは、様々な意味で大変意義深いことであると思います。今後は本学の医療、福祉などの知的資源を、弘前市での公開講座開催にとどまらず、県内各都市に開放していくことを企画してはどうかと考えます。

これまで講座を担当してこられた各教員に心から謝意を表すると同時に、この講座が未来の地域づくりにつながることを期待しております。

## 弘前医療福祉大学紀要投稿要項

### 1. 投稿論文

投稿論文は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない和文及び英文の総説、論説、原著、研究報告、研究ノート、短報、その他とし、随時受け付ける。

### 2. 論文の種類

他誌に未掲載で投稿中ではない以下①-⑦の論文を受け付ける。

尚、①-⑤は査読があり、⑥⑦は査読なしとする。

- ① 総説：ある主題に関連した研究の解説、総括
- ② 論説：主題に関する理論の構築、展望、提言
- ③ 原著：独創的な研究により、新しい知見、理論を示した論文
- ④ 研究報告：研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例・症例に関する論文
- ⑤ 研究ノート：論文としては未整理であるが、すぐに知らせる意義のある研究
- ⑥ 短報：教育実践報告、研修報告、国際学会、セミナー報告
- ⑦ その他：委員会が必要と認めたもの

### 3. 投稿資格者

- 1) 本学専任教員
- 2) 1) の共同研究者
- 3) その他 委員会が適切と認めた者

### 4. 倫理的配慮

人および動物を対象にする研究では、倫理的に配慮し、その旨を本文中に明記する。

研究が適切に行われたことを示すため、「本研究は弘前医療福祉大学研究倫理規程に沿って行われた」、英語論文の場合は“The study was performed in accordance with the Rules for Ethics of Study, Hirosaki University of Health and Welfare.”と文中、または文末に明記する。

## 執筆・投稿要領

### 1. 原稿の構成と表記

- 1) 原稿はA4版、10ポイントで1枚につき40字(英字・数字は半角)×40行 横書きとする。

原著、研究報告、総説、論説は10枚(16000字)以内とし、研究ノート、短報、その他は5枚(8000字)以内とする。但し、図表1枚は800字(半枚)分に数えるものとする。欧文の場合にはA4版、ダブルスペースで1枚につき26行でタイプする。

欧文は必ずnative speakerによる校閲を受けたものであること。

- 2) 表紙には論文題名、著者名、所属および所在地(希望するならe-mail アドレスも)を和文と欧文の両方でそれぞれ明記する。さらに本文枚数(引用文献、要旨を含む)、図、表、写真、図表の説明文などの枚数を記載し、最後に論文の種類:「原著」(例)のように明記する。2枚目には600字以内の和文要旨とキーワード3-5語、3枚目には300語以内の英文要旨とkeywords 3-5語を記す。

- 3) 図表の使用は最小限にとどめ、「図1」、「表1」、「写真1」等 それぞれの通し番号をつけ、本文とは別に一括する。

これらの挿入希望場所を本文原稿右余白にそれぞれ指定する。図、表、写真については印刷時の大きさを明記する(例:原寸、70%、50%など)。

- 4) 外国の人名、地名に原語を用いるほか、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。

- 5) 注は脚注として最小限にとどめる。

### 2. 文献記載の様式

- 1) 引用文献は、本文の引用箇所の肩に1)-3)と表すか、又は引用箇所の文末に(第1著者の姓、発刊西暦年)で表し、最後に一括して引用順又はアルファベット順に掲げる。

- 2) 参考文献は、最後一括して著者名のアルファベット順に記載する。
- 3) 引用・参考文献の記載方法・順序
  - 〈雑誌〉著者名：表題名、雑誌名、巻(号)：頁－頁、発行年
  - 〈単行本〉著者名：論文題名、書名(版表示)、編者名、頁－頁、発行地：出版社、発行年
  - 〈訳本〉著者名：論文題名、書名(版表示)、編者名、訳者名、頁－頁、発行地：出版社、発行年
3. 投稿の際の提出書類
  - 1) 原稿：表紙、和文要旨、英文要旨、本文、図表  
(総説・論説・原著・研究報告・研究ノート・短報 ともに1部、査読を要するものについてはコピーを2部提出する。コピー2部については、著者名、所属、謝辞ほか著者を特定できるような事項を削除する。)
  - 2) 紀要原稿提出表(大学共有ファイル内)：連絡先(氏名、住所、電話番号、メールアドレス)と別刷希望部数を記入する。
  - 3) フロッピーディスクまたはCD(1枚)；ソフトはワードとし、ファイル名を「本文」「和文要旨」「英文要旨」「図1」などとする。但し、提出は論文受理後とする。
4. その他
  - 1) 著者校正は原則として一校までとする。校正時の大幅な追加、修正は原則として認めない。
  - 2) 別刷は10部まで共通経費による負担とする。

# 編 集 後 記

弘前医療福祉大学紀要編集委員会  
委員長 長 岐 正 彦

昨年4月勤務直後、紀要編集に携わることになりました。右も左も分からないまま皆さまのご協力のもと、無事ここに本学紀要第6巻をお届けすることが出来ました。

今回、これまで開催された公開講座の特集を組みました。地域に開かれた大学として研究成果を社会に還元するために行って参りました公開講座の内容を紹介致します。副学長には巻頭言をお願いしました。

論文は総説1、原著5、研究報告4、実践報告2、特別枠1の13編です。医療現場に出向いての実習指導や国試対策のための個人指導などの多忙を極める中で、日頃の研究成果を論文にまとめ、投稿して下さった著者の皆さまと、その研究活動を支えて下さった教職員の皆さまに感謝致します。

本学では今春3回目の卒業生を送り出します。毎年卒業生の皆さんが、それぞれの医療現場で生き活きと活躍されることが一番の地域貢献に繋がっていくこと間違いなしです。大学として、これからが成長期に向かいます。丁度この時期、県内において保健・医療・福祉・食品などライフ分野の研究・教育を担う5大学\*が主体となって保健科学研究会を設立しました。2月には第1回保健科学研究発表会が開催されました。

弘前医療福祉大学紀要も開学した翌年の2010年から発行を重ねてきました。紀要委員会としては、この大学の成長期に医療福祉専門の教員さらに基礎系の教員、あるいは理系・文系の教員がバランス良く日頃の研究成果を公表されることを望みます。紀要原稿は常時受け付けております。本委員会は、今後も皆さまの研究成果を国内外に発信していきたいと考えております。

\* 5大学とは、東北女子大学、東北女子短期大学、弘前学院大学、弘前大学大学院保健学研究科、弘前医療福祉大学です。

弘前医療福祉大学  
紀要編集委員会

委員長 長岐正彦  
副委員長 白坂康俊  
委員 三浦秀春  
委員 佐藤厚子

---

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare

弘前医療福祉大学紀要  
第6巻 第1号

平成27年3月31日発行

---

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1  
弘前医療福祉大学内 紀要編集委員会  
TEL：0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5  
やまと印刷株式会社  
TEL：0172-34-4111 FAX：0172-36-3299

---

## Contents

[Review]	Study of the pineal organ and pigment cells, with special reference to development, tumor and Wnt signaling <b>Takashi Kachi</b> .....	1
[Original]	PHYTOCHEMICAL ANALYSIS OF THE LEAF OF THE FUJI APPLE TREE <b>Masahiko Nagaki, Manami Kasai, Yoshifumi Goto</b> .....	19
[Original]	Study of factors in conjunction with a death attitude of occupational therapy student <b>Akiyo Harigae, Kenichi Fujiwara, Mari Kasai, Hiroto Iwasa, Tetsuaki Yoshimura</b> .....	27
[Original]	Awareness of Chief Care Managers regarding Network Construction — Possibilities for Outsourced Comprehensive Community Support Centers — <b>Yuka Ohnuma, Taeko Koike, Megumi Tomita, Yuko Kudo, Fujiko Terada, Naoki Nakamura</b> .....	33
[Original]	Differences in body fat accumulation in undergraduate nursing and physical education students with lifestyle differences <b>Hidetaka Hasegawa, Hiromichi Yokoyama, Daisuke Murakami, Yuka Hasegawa, Yuki Matsuki, Michinori Miyazaki, Hideaki Matsuki</b> .....	43
[Original]	The acceptance process of family caregivers with early-onset dementia <b>Taeko Koike, Miwako Hirakawa, Yuko Kudo, Yuka Onuma, Fujiko Terada, Yasuo Azumaya, Yuko Taka</b> .....	55
[Report]	Measuring the differences in communication skills between students who aim to occupational therapy, speech therapy and clinical training leaders <b>Saori Chiba, Akihiro Sato, Kazuhiko Asada</b> .....	65
[Report]	Commitment to children with attachment disorder in England and its implication to the Japanese education — In reviewing a visit to the Nurture Group Network — <b>Ariko Kodama, Shinji Kurihara, Atsuko Takahashi, Takaya Kouyama, Erina Mori, Haruka Miyamura, Nanami Kawasaki, Miho Kabeya, Chisako Nakata</b> .....	73
[Report]	A study about elderly people understanding of life-sustaining treatment and living wills. — Comparison before and after the class — <b>Chiaki Shioya</b> .....	83
[Report]	Perceptions of network building among public health nurses at outsource-type comprehensive community support centers <b>Megumi Tomita, Yuka Ohnuma, Taeko Koike, Yuko Kudo, Fujiko Terada, Naoki Nakamura</b> .....	91
[Educational Practice Report]	Experiences of nursing technology students according to a nursing technique checklist <b>Daisuke Murakami, Hidetaka Hasegawa, Miwako Hirakawa, Chiaki Shioya, Keiko Furukawa, Miki Kumasaka, Eriko Mikami, Ryoko Kimura, Miwa Miura, Masumi Saito, Kazue Yajima</b> .....	99
[Educational Practice Report]	Active teaching portfolios- a tentative plan (solving one's problem) <b>Ryoko Saitou</b> .....	105
[Other Report]	Fateful Encounter of Kenichi Kato, editor-in-chief of "Shonen Club" and poplar writer Koroku Sato <b>Michimasa Saito</b> .....	111
[Other Report]	Special Topic Extension proceedings of Hirosaki University of Health and Welfare .....	121